

# ほほえみ

第62号 2025年1月発行



独立行政法人 国立病院機構  
七尾病院

〒926-8531 石川県七尾市松百町八部3番地の1  
TEL (0767) 53-1890 (代)  
FAX (0767) 53-5771  
ホームページ <https://nanao.hosp.go.jp>



「立山冬景」橋本義則（七尾美術作家協会会員）

## 理念 笑顔と誠実な医療を通じて世の中に貢献する

### 私達の信条

私達は、患者さんにいつも愛と思いやりの心で接します。  
私達は、国の担うべき医療を提供し、地域に親しまれる病院を目指します。  
私達は、質の高い医療を提供し続けていくために日々研鑽いたします。  
私達は、医療の進歩に貢献するために臨床研究を推進します。  
私達は、互いに協力し、働きがいのある明るい職場作りに努めます。

## 目次

2025年年頭あいさつ	2
瑞宝中綬章を拝受いたして	3
ベストポスター賞 受賞しました	4
看護部 出前講座の紹介	5

# 2025年年頭あいさつ

病院長 安井 正英

新年明けましておめでとうございます。昨年元日の能登半島地震から早一年がたちました。1月4日仕事始め式では、今年の抱負などにはふれず、とにかく一致団結して震災を乗り越えることをお願いし、「さあいくぞ、おー」とかけ声をあげて2024年が始まりました。元日より3ヶ月間は震災対応に追われ、その詳細に関しては昨年のほほえみにも記載させていただきました。今年は、震災関連を除いた昨年のトピックを振り返りつつ、本年の目標に関して述べさせていただきます。



まず、2024年6月1日より結核病棟が一般病床およびモデル病床7床（プラス8床休床）に変更許可されたことがあげられます。空気感染に対応した結核病棟は、平成29年11月に完成し築7年のきれいな病棟ですが、COVID-19感染等結核以外の患者様は入院させることができませんでした。今回一般病床個室が7床増えたことにより、結核以外の入院対応が可能となり、病床運用の利便性が向上し、入院患者様の受け入れにも余裕ができました。当院は、「結核、神経筋疾患および重症心身障害者診療」を3本柱に掲げていますが、これらに加えて、“急性期病院と介護医療院・施設の狭間にある患者様の受け皿になる”ことを第4の柱に掲げたいと思います。癌や慢性疾患の終末期緩和ケア、中等症以上の呼吸不全などの患者様の受け入れが、昨年より徐々に増加してきており、地域において当院が果たせる役割の一つであることを実感しております。今年は、これらの患者様に対してより質の高い医療を提供するため、緩和ケアや呼吸ケアの中心となるチームを立ち上げ、病院全体のスキルアップを図っていきたいと考えています。

毎年国立病院総合医学会を目標に、各部署で研究やQC活動に取り組み、毎年10題以上の演題を提出し、臨床的にも有用な治験が見いだされてきています。今年からは、これらの成果を病院全体で継続的に取り組むための仕組みを作り、さらに発展させていきたいと考えています。さらに、国立病院総合医学会のみならず、石川県内をはじめとした他の病院にもアピールしていくことも積極的に推奨したいと考えています。また、今年は第79回国立病院総合医学会総会が、金沢医療センター阪上院長が会長となり、11月に金沢で開催されます。石川病院伊勢院長とともに私も副会長を務めますが、能登半島地震関連のシンポジウムや特別講演、市民公開講座、能登特産品販売などを通じて、能登の復興に少しでも貢献したいと考えております。



診療材料費、人件費、光熱費などの高騰による支出が大きな経営負担となり、これらの支出は医療では価格転換ができず、いずれの医療機関も大変厳しい経営状況に陥っています。しかし、このような時代においても、当院のキャッチフレーズである「笑顔と誠実な医療を通じて世の中に貢献する」ことを常に念頭に、これまで以上に地域医療に貢献すべく職員一同努力する所存であり、本年も七尾病院を宜しくお願い致します。

# 瑞宝中綬章を拝受いたして

七尾病院名誉院長 松島 昭 廣

昨年秋の叙勲受章に際しまして、皆様からご祝辞を賜り誠に有難うございました。これも皆々様から頂いたご指導・ご支援の賜と心より感謝申し上げます。

顧みれば昭和46年大学卒業後、障害児医療を専攻する決意で小児科研修終了後、故郷の国療富山病院で重症心身障害児(者)(以下重障児)・小児慢性疾患医療に従事しました。一人小児科医で県下一円の在宅訪問を実施し、重障児病床160床と小児慢性40床を開設しました。小児性神経学エキスパート研修を経て、樋口洋元院長の懇請と兼任発令もあって、当院へ昭和60年副院長に招聘され、平成2年43才で院長に昇任し、以来22年間の長きにわたり管理責任者を担ってきました。この間、平成8年の国立病院・療養所の再編成や、平成16年の独立行政法人化への移行、そして厳しく経営改善が求められた激動と変革の時代を乗り越えて来ました。能登地区の小規模施設ゆえ、医師標欠問題で難儀いたし、毎年深刻な医師不足を凌いできました。政策医療の中の重障児・神経難病・結核医療の3本柱を推進し続ける為に小児神経・神経内科・呼吸器学会の各専門医指導教育関連施設認定を取得し、診療の質の向上に努めました。重障児医療の分野でも、療育研究部会の設立をはじめ、通園・在宅訪問事業や外部医療・教育機関からの研修受け入れを実施しました。自身も文科省・厚労省の分担協力研究者・金沢大学外共同研究者として、多くの研究成果を発表してきました。また岐阜大・富山大・金沢大の非常勤講師として、発達障害医療に関する講義を30数年間担当しました。国立重症児施設協議会の理事・副会長職を長年勤め、療育に携わる各職種の連携役や、専門看護師育成委員長などを担いました。神経難病・結核医療の実践においても、「進取而敢為」の精神で取り組んで参りました。平成24年退官後は、金城大学看護学部設置時の小児科教授として「人明かり」となって活躍できる看護師の育成に尽力しました。また30余年継続して、市教育支援委員会や障害福祉委員会に参画しております。

今は当院の特殊診療である“痛み”の治療外来と障害児療育相談に、毎週火曜日出勤しています。「一生勉強、一生青春」の道を歩んでいきたい、今後も脳力と体力が許す限り、地域社会の為に、そして当院の発展の為に微力ながら努めて参りたいと思います。



11/26 叙勲報告会にて



勲記と勲章

# ベストポスター賞 受賞しました

## ～ 栄養管理に関する災害対策マニュアルの妥当性 ～

栄養管理室 八長 千尋

当院は石川県の能登半島中央部の七尾市に位置しており「令和6年能登半島地震」にて被災しました。私自身、大きな地震を経験するのは初めてで、困惑することばかりでしたが、実際に災害対応を行う中で様々な気づきがありました。そこで、ポスター発表として、第78回国立病院総合医学会で報告させていただきました。

学会というものに参加した経験がなく、発表は緊張しましたが、当日は七尾病院の職員や東海北陸グループの管理栄養士の方々、また興味を持って聞きに来てくださった方々に囲まれながら、発表を終えることができました。また、他施設の様々な取組や研究を聴講し、有意義な時間を過ごすことができました。



### ■ 災害当時の状況

私は車の中で震度6強の地震を経験しました。道路が波打つような揺れでした。電柱が傾き、地面が陥没する中、津波の避難も兼ねて病院へ向かいました。幸いにも建物は無事で、人的被害もほとんどありませんでした。栄養管理室の安否確認の後、調理師に配膳・下膳をお願いして、栄養管理室長と連絡を取りながら当直師長を始めとした臨時対策本部と入院患者さんの食事に関して段取りを立てました。

発災時はベテランの調理師長が勤務しており、発災後すぐに回転釜に水を確保し、勤務後自宅から炊飯器を持って戻って来てくれました。翌朝以降も、調理師や給食委託職員の方々が、被災しながらも出勤し業務に当たってくれました。近隣施設からも不足する物資を早急に支援していただき、皆様の協力のおかげで温かい食事を患者さんへ提供し続けることができました。

### ■ 栄養管理に関する災害マニュアルについて

今回は栄養管理に関する災害対策マニュアルの妥当性について検証しました。発災当時、当院のマニュアルは非常食や飲料水は3日分の備蓄でした。しかし、今回の地震では長期断水が発生。食器洗浄ができず、市内の市場や地元の取引先が被災し一部の取引先の生鮮食品が納品できない状況となり、非常食やペットボトルの水、使い捨て食器の使用期間が長引きました。検証により当院の場合、マニュアルに沿った3日分の備蓄では支援が来ないと不足が起こる可能性が考えられ、地域性や施設の特徴を考慮した備蓄数の設定が必要だと判明しました。

現在、この検証や今回の経験を基に当院の栄養管理室として必要な備え・マニュアルの整備を進めております。

最後になりますが、今回の震災において温かいご支援・お言葉を多数いただき、この場を借りて感謝申し上げます。

# 看護部 出前講座の紹介

看護部 老人看護専門看護師 田本 奈津恵

七尾病院看護部では、2013年度から地域の皆さまとの交流や健康づくりのお手伝いとして“出前講座”を開催しています。出前講座とは、皆さまのところに外向いて暮らしに役立つ情報などお話しするものです。知識や経験をお伝えし、対話やコミュニケーションを図り住み慣れた地域で自分らしく過ごす一助となれるよう努めています。当院看護部では、3つの内容（病気になりにくい体づくり、便のはなし、最期まで自分らしく生きる）に取り組んでおり、出前講座に参加された皆さんと体操やマッサージ、アンケートや嚥下テストなど行いご自身の体のことを知っていただく機会としています。「聞いたことのある内容でももう一度聞きたい」「一年に一度はこんな機会があるとよい」などの反応を頂いています。病院を抜け出して、皆さまの前でお話しする時は緊張しますが、お話しできる機会はとても刺激があり達成感を感じます。今後もブラッシュアップしながら、皆さまとの機会を楽しみにしています。無料で開催していますので知りたい、聞いてみたい内容がありましたら、ぜひご相談ください。



# 職員募集!

問い合わせ先

ご希望の方は、  
お気軽にご連絡ください。

独立行政法人国立病院機構七尾病院  
(0767) 53-1890 (内線1105)

- 療養介助員(非常勤)
  - 保育士(非常勤)
  - 事務補助者(非常勤) 医療事務
  - 理学療法士(非常勤)
- を募集しています

## 外来診療担当医表

外来受付時間 8:40~11:30 13:00~15:00

区分・時間	月	火	水	木	金	
呼吸器内科※1	午前	安井	安井	藤村	藤村	安井
	午後			藤村	藤村	
脳神経内科	午前	横地	木元	木元・橋井	森永	横地・森永
内科	午前	吉尾・泉谷	陳	橋井	森永	吉尾・泉谷
	午後	吉尾・泉谷	陳	橋井	森永	吉尾・泉谷
消化器内科	午前		陳			
小児科	午前	泉・瀬野※2	泉※2	泉	泉・瀬野	泉
	午後	泉・瀬野	泉	泉	押切・瀬野	
内科 (皮膚/形成)		井川※3 (13:00~17:00)	藤村啓 (10:30~15:00)	藤村啓 (10:00~11:30)		北岡 (13:00~15:00)
ペインクリニック内科	午前	高澤	高澤・松島		高澤	高澤 松島(第1~第3)
	午後		松島(第2・第4)	高澤		松島(第4)
循環器内科	午前				正木	

※1 呼吸器内科の慢性咳嗽外来は予約診療となります。初診で診察ご希望の方は事前にお問い合わせをお願いします。

※2 小児神経・発達障害・てんかん外来の初診は予約制です。診察ご希望の方は事前にお問い合わせをお願いします。

※3 褥瘡診察で予約制です。診察ご希望の方は事前にお問い合わせをお願いします。

## 病院概要

■医療法病床 214床

■標榜診療科

内科、脳神経内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、小児科、ペインクリニック内科、リハビリテーション科



## 案内図



JR七尾線「七尾駅」下車  
→北鉄バス【和倉温泉行】にて  
(3.7km./約15分)七尾病院前下車  
→徒歩5分(500m.)

※平日の午前中は坂下まで  
病院バスの送迎あり



## 編集後記

昨年末から家族・友人のインフルエンザ、マイコプラズマ肺炎がちらほら、ついに私も風邪症状の咳に苦しめられた今年の始まりとなりました。これはとにかく加湿をして、「のどの保護と休息に尽きる。」と思い、マスクをして十分によく眠りました。私の場合は、はちみつやカテキン緑茶を取り入れていましたが、基本的な感染対策にプラスして、皆さん自分に合った対応を心がけましょう。

医療社会事業専門員 坂本 千夏子